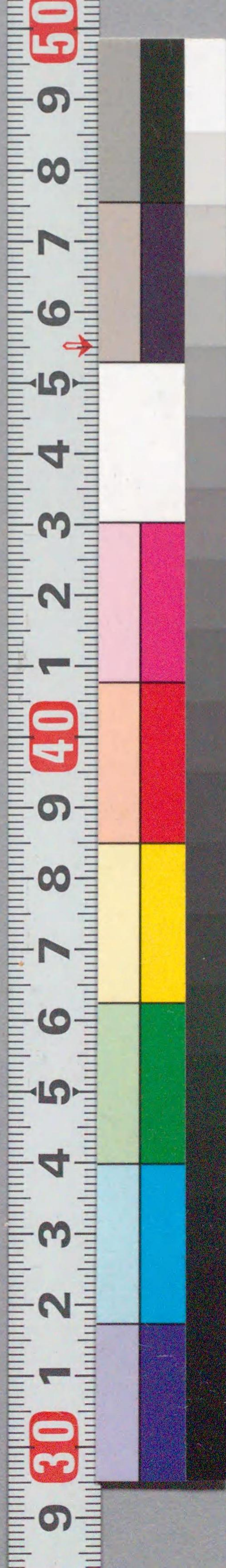


金銀太平記

207  
274





金浪左平記

寛政三辛亥春





序

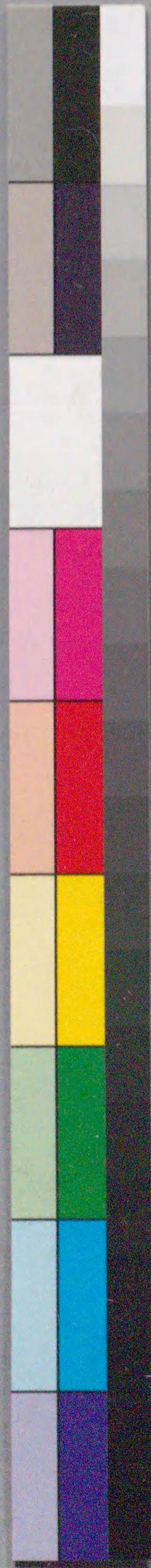
夫金銀銅鉄各其産小

出の川をりに流るのこるとらん能任りて

真功きんこう書しよせら不ふ入い六ろく七しち篇へん曰い

家けととめめ成な中ちゆう之の産さん決けつ

止と也や不ふ志しり







いづまの  
はり福の飛高のな  
まゐるのたいぶおかしきをわ  
先記大かゆもちの金よりあ  
さかえ  
やしきゆか  
今山をさきせんせうし  
てあまのいもいもこ  
余より借り天の海この後  
もたると申すの御回  
金帳幸々  
あまのいづまの  
志めつとがけのい  
もて八百万の金た  
あはれあひい  
こがとるい  
りぐり光決お  
うき、福々  
申にあり  
ことさ  
い  
あまのいづまの  
らゆのひろ  
いづまのいづまの



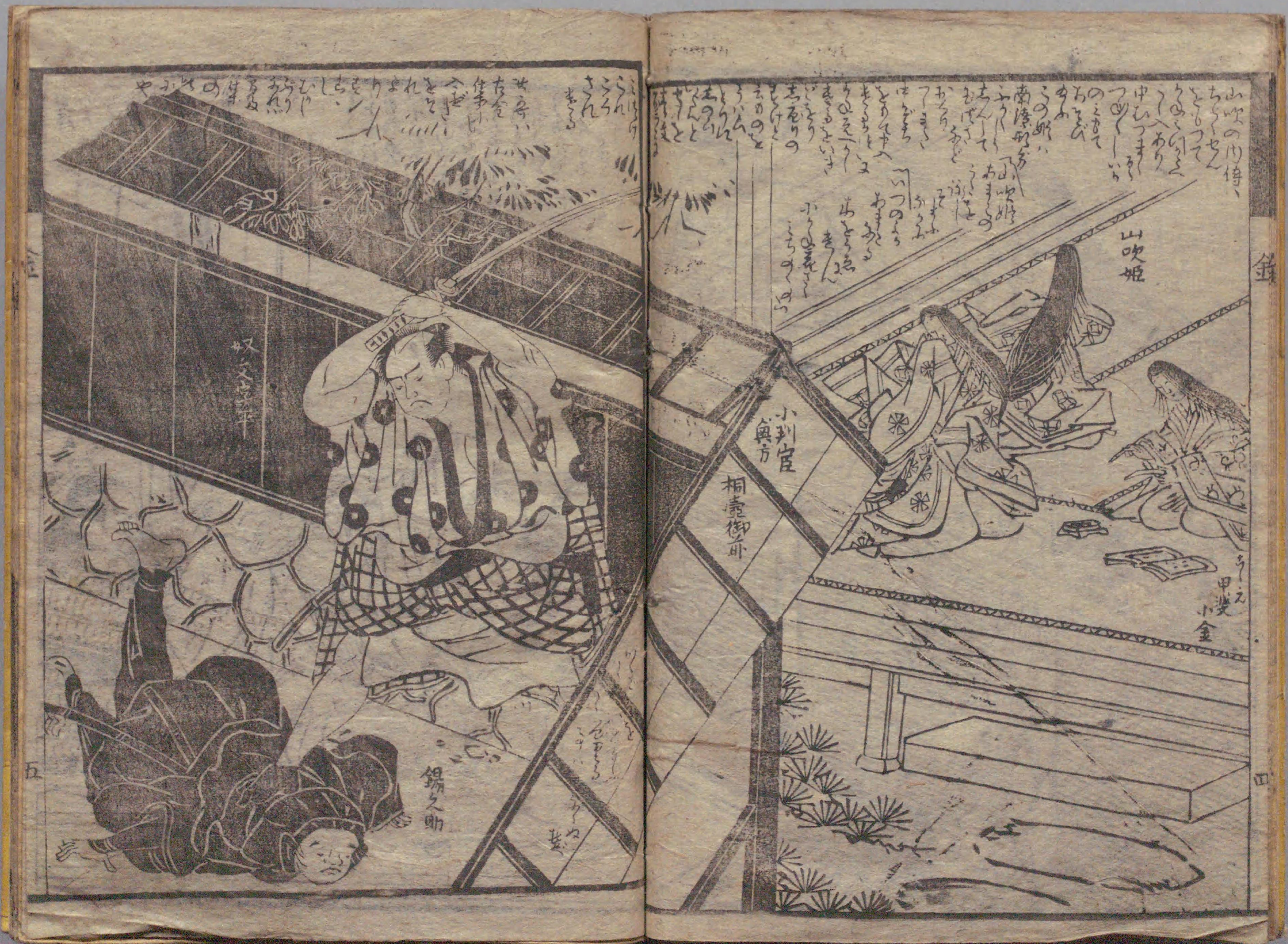
















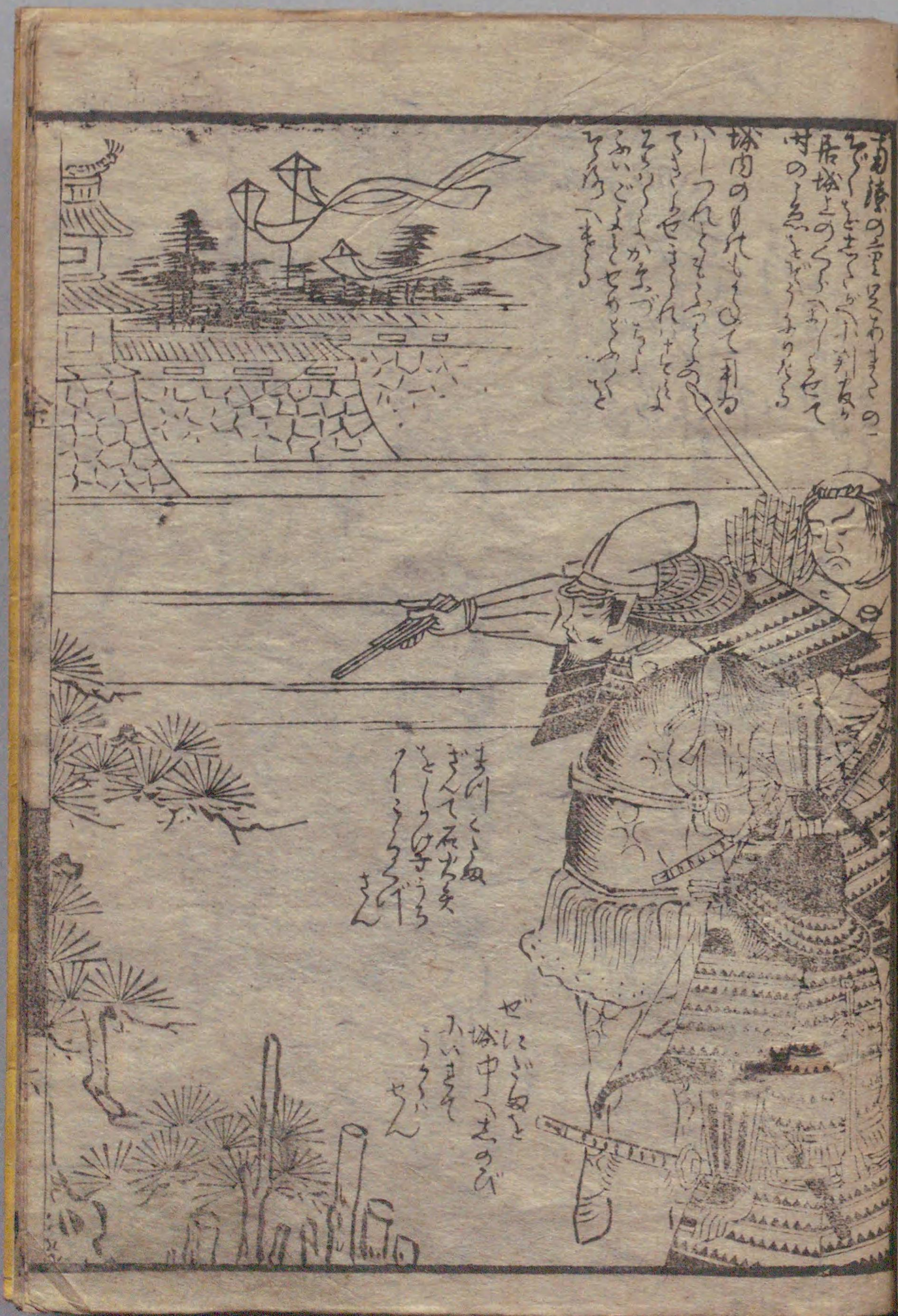




国立国会図書館 金銀太平記：2巻 207-274

ガラス使用





上野藩の...  
居城上の...  
村の...  
城内の...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

まの...  
...  
...  
...  
...

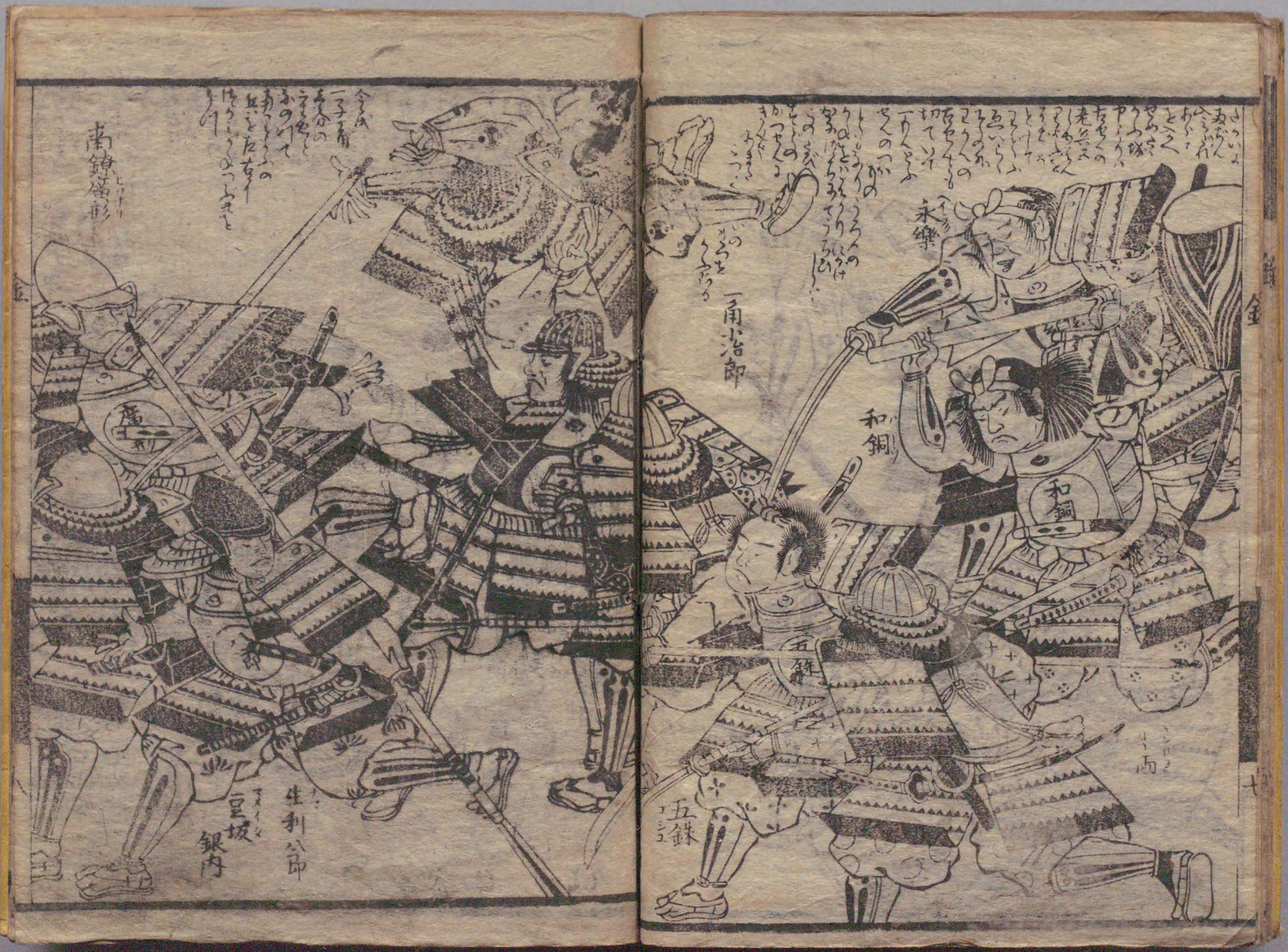
せ...  
...  
...  
...  
...













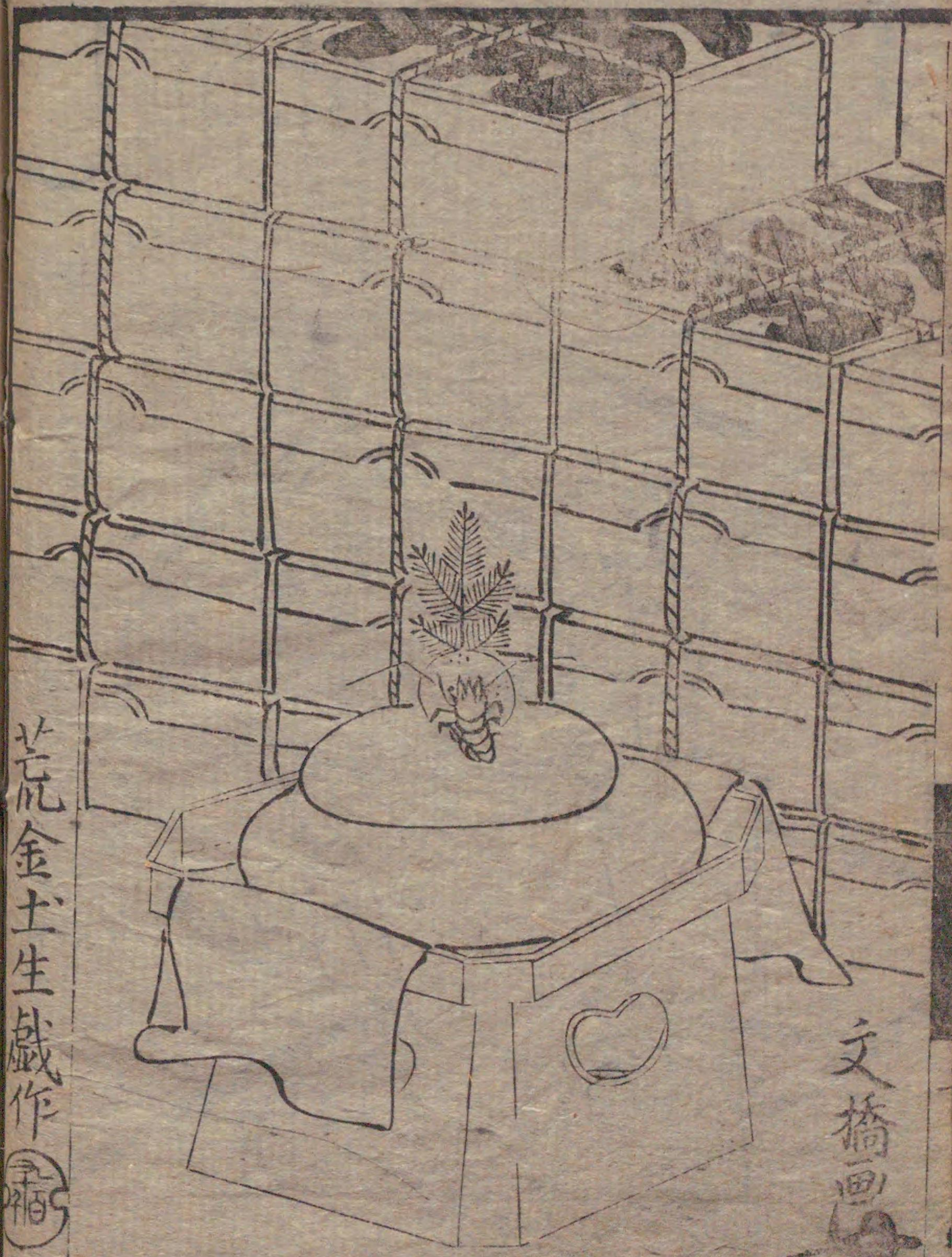








207  
274

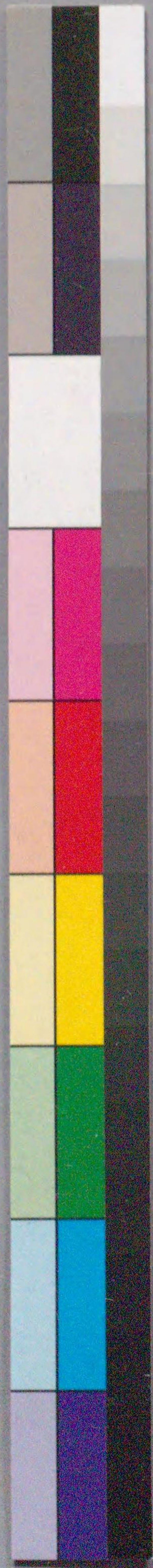


荒  
沉  
金  
土  
生  
戲  
作  
福

文  
橋  
画



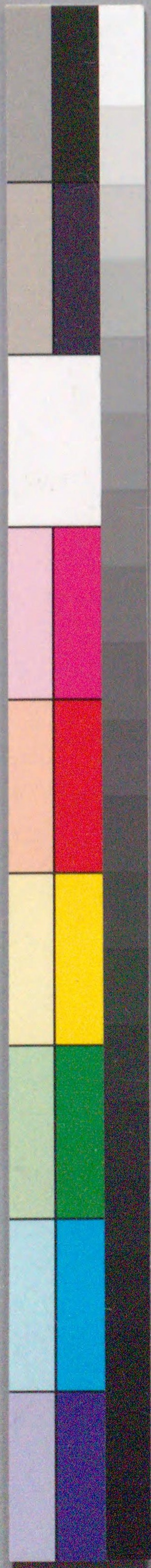




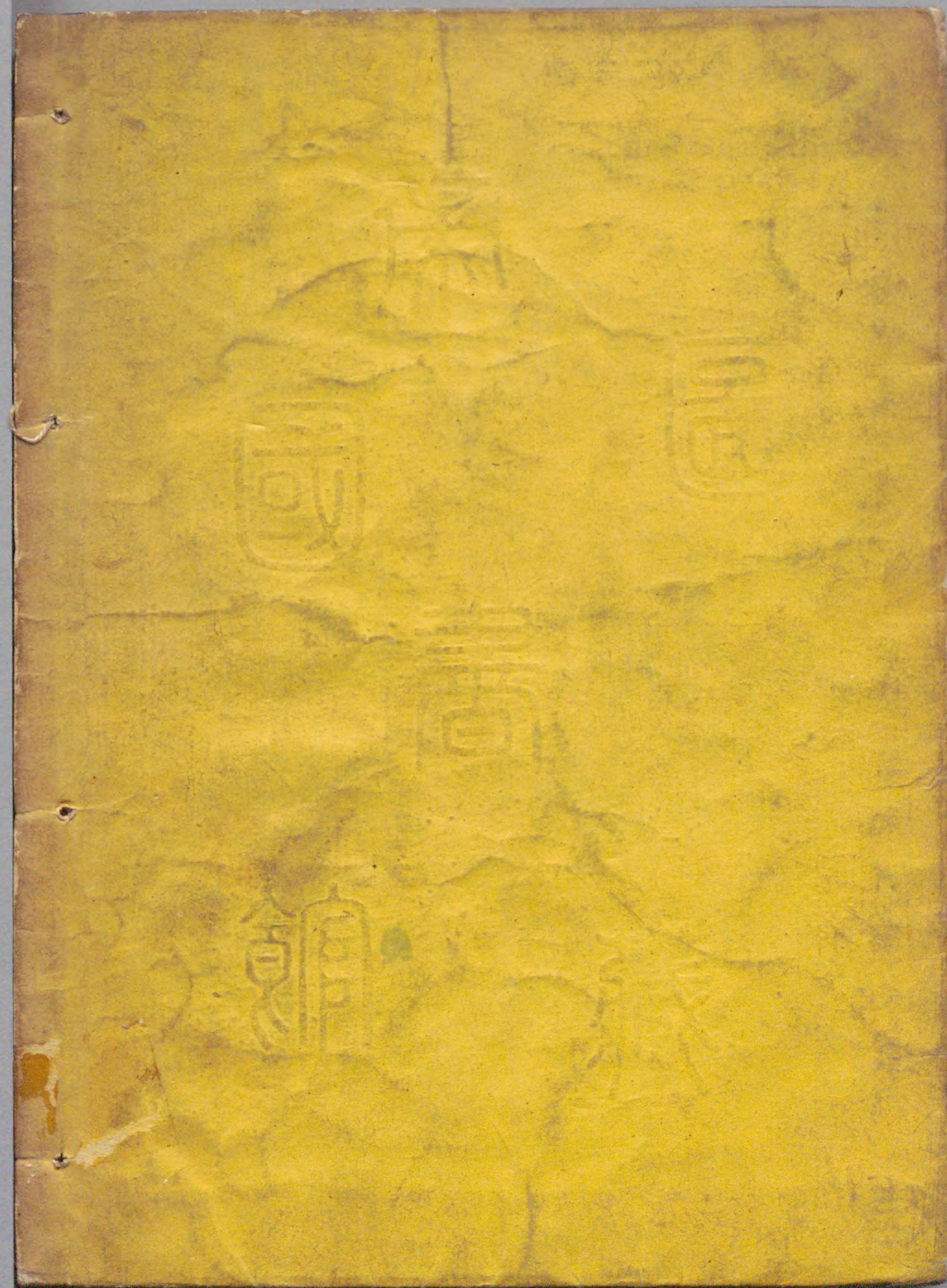
国立国会図書館 金銀太平記：2巻 207-274

ガラス使用





国立国会図書館 金銀太平記：2巻 207-274



ガラス使用

